

## 第2回 西蒲区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成28年1月19日(火)午後2時から午後3時30分まで
会場	中之口コミュニティセンター 会議室1
出席者	西蒲区自治協議会委員 出席9名 教育委員 織田教育委員、眞谷教育委員 事務局 地域教育推進課長、巻地区公民館長、西蒲区教育支援センター 一所長・主任・指導主事
議事	<p><b>1 開会</b></p> <p><b>2 教育委員挨拶 眞谷教育委員</b></p> <p><b>3 出席者紹介</b></p> <p><b>4 平成27年度「全国学力・学習状況調査の結果について」</b></p> <p><b>5 意見交換</b></p> <p style="padding-left: 2em;">テーマ「地域と学校の連携について」～地域の子どもは地域で守り育てる～</p> <p><b>自治協委員</b></p> <p>中学校3年の結果について、全国平均などと比較して低いということは、地域性があることなのではないでしょうか。例えばクラブとか部活とか、運動、そういったものに力が入っているということも考えられますが。</p> <p><b>教育委員会事務局</b></p> <p>西蒲区内の中学校の場合、部活動については、確かによその区に負けない活動を展開している学校が多くあります。そのことと、この全国学力・学習状況調査の結果が関連していると、つまり、部活に力を入れているがゆえに成績が少し振るわないとは、明確には言い切れないと思っています。</p> <p>学校では、部活動の適正な活動と同時に、授業がまず第一、基本となります。授業の構えとか、改善するところがないのか、こと細かく取組み、学習指導のあり方の見直しなどの改善を図っています。</p> <p><b>教育委員</b></p> <p>今のご質問については、相関性をはっきりと求めることは難しいと思います。確かに西蒲区では、非常に特色のある運動部をお持ちの学校が多く、積極的に活動している子どもたちが多いと感じています。その影響がどこまで相関性があるかは一概に言えませんが、この調査の「家で計画を立てて勉強していますか」「家で予習復習していますか」という部分が、市全体や県、全国から見ると低くなっています。家庭での勉強時間がとりにくくなっていることがあるのかもしれませんが。</p> <p>ただ、子どもたちの能力というのは、学力だけではかれるものではありません。</p>

せん。「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」、これは明らかに市、県、全国を大きく上回った数字になっています。「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」これも大きく上回っています。こういう気持ちを育てる教育が西蒲区の各学校では間違いなくできている。それはやはり、部活動をしていることも大きな効果ではないかと思えます。人間力のある子どもたちがこの西蒲区では育っているということが、ここではっきりと言えるのではないかと思えます。

人間力というのは数字では表せません。大人になって社会に出ていくという先のことを考えると、学力だけでは通用しない社会になりつつあるので、人間力が高いというのも、これからの時代には大事なことかと思えます。地域の皆様方が、この結果をどう捉え、これから学校とどう連携して、これからの西蒲区の子どもの育て方を考えていかれるかということが、皆様方の一つの大きな課題にもなっているのかもしれない。

平均を下回ったからだめということでは決してないと私は見えています。

#### **自治協委員**

「学校の規則を守っていますか」という問いに、「ビデオなどを2時間以上」となっていますが、これは学校の規則に入っているのでしょうか。

#### **教育委員会事務局**

すべての学校のきまりの細かいところまでは把握しておりませんので、一概に申し上げられませんが、こと細かく何時間といったところまで決めているような学校は少ないと思えます。

これらは家庭生活の中でのことですので、時間は適切に、正しい使い方をしましょうという情報教育にかかわる指導は各学校で行っていますが、具体的に何時間とか、そこまで細かいものはないと思えます。

#### **自治協委員**

学力を向上させるために先生方は非常にご苦労されていると思えます。学校や家庭での教育、塾など勉強する場があるので、そういった取り組みも当然あると思えますが、西蒲区はなかなか塾などへ通うということもできません。

具体的な数字は分らないけれども、あそこは教育、あそこはスポーツが得意だとか、それぞれ特色、頑張っている地域があるわけです。

#### **教育委員会事務局**

教育委員会の回答としてではなく個人的な感想で申し上げますと、いわゆる三世代の生活、おじいちゃん、おばあちゃんたちとの関わりや、パートナーシップ事業で学校ボランティアをされる方々との関わり、そういう機会というのはとてもいいことではないかと思っています。ただ、いわゆる学習塾など

については、ほかの区と比べて地理的な条件などの違いがあるのは事実かと思えます。

そういったところを少しでも改善しようと、区教育支援センターでは、今年度から地域人材活用事業に取り組みました。これは西蒲区在住の元教員から、放課後子どもたちの勉強を見てもらうもので、岩室地区で今年度から始めましたが、順次、区内の各学校に広げていこうと思っています。こういったものは、成果が急に出てくるものではないので、少しずつでもできるところから、いろいろな機会を増やしていきたいと思っています。

#### **自治協委員**

西蒲区の子どもたちは生活習慣がしっかりしている。自己肯定感も高く、また規範意識も高いというところで、教育委員から「人間力が高い」というお褒めの言葉をいただいて嬉しく思っています。

この地区は非常に豊かなところで、春に田植えをして、秋には実りがあって、そんなにがつがつしなくてもやっていける。ある意味ハングリーに欠けるところがあって、それが勉強に対して欲を持たないというか、このくらいでいいかなといったことが今の子どもたちの中にも、あるのかなと感じました。

学力さえあればいいとは思いませんが、将来、自分の夢をかなえるためにはある程度の基礎的な力は必要だと思いますし、ここで育つことがそういう意味でハンディにならないように、是非、子どもたちの力を伸ばすようなことを、学校側にもしっかり伝えていただければありがたいと思っています。

#### **自治協委員**

学校の教育現場というものは分りませんので、数字で見たときに、西蒲の小学校は全国平均よりもほとんどのポイントが高いということを初めて知りました。すばらしいことだとうれしく思ったのですが、それに対して、中学校に入ると下がってきているということは、どこに原因があるのかと単純に思いました。中学校と小学校では全然違いますから、勉強の内容が難しくなるとか、部活があるとか、思春期であるとか。「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」も、小学校ではだいぶ高いですが、中学校になると落ちていきます。これもやはり成長期などが関係あるのかどうか。

先ほど「てらこや」の事業の説明がありました。岩室小学校で何回か見学をしましたが、雰囲気がとてもよく、子どもたちが計算などでつまずいていても、丁寧に教えていましたので、子どもにとっても親御さんにとってもいい時間なのではないかと感じました。親御さんの感触や子どもたちの様子、急に表れるものではないけれども、現状はどのようになってきていますか。

#### **教育支援センター所長**

昨年5月から、岩室小学校と和納小学校で学習支援を始めました。岩室小学校では1年生から6年生までを対象として、月曜日から木曜日まで週4日

間やっています。はじめは参加する子どもが少なかったのですが、ふれあいスクールと行き来しながら徐々に増えており、今は定着しているようです。参加者数は対象児童の40パーセント程です。金曜日は実施していませんが、先生がいなくても自主的に子どもたちが来て学習するようになったことが嬉しい成果です。それがこの事業の一つの目的であり、それが学力向上につながっていくと思っており、そういう雰囲気になったことで喜んでいきます。今後も続けていくことによって、そういう子どもたちが徐々に増えていくのではないかと期待しています。

#### **教育委員会事務局**

この調査は4月21日のもので、これらの結果を受けて各学校で取り組んでいます。例えば、各中学校は中間テストあるいは期末テストの期間に、小学校と連携して、今週は家庭学習強調週間ということで、家庭で小学生も中学生のお兄ちゃんと一緒に勉強しようというようなことを、小中連携の取り組みとしてやっています。また中学校でも、必要な課題をどう出していくかということを考えて、やはり家庭学習の時間はもっと充実させていく必要があるという認識の中で、現在、取り組んでいるところです。

#### **自治協委員**

数字というのは非常にシビアですので、もちろん比べたりします。この調査結果の数字を基に、指導主事の先生が学校を回って指導しているとお話しがありました。数字だけに目を向けたくはありませんが、全国平均より下回っているものがあるので、小学校と違ったところもあるかもしれませんが、その指導の仕方を聞きたいと思います。先ほどの「人間性の向上」はすごく大事なものです。学力ももちろんですが、学校が負担にならないような指導をしてくださるといいなという素朴な気持ちでお尋ねします。

#### **教育委員会事務局**

数値だけにとらわれ過ぎてはいけないと思っていますが、何が問題かという、子どもたちが日々の授業の中で、分かった、あるいはできたという喜びが、やはり次への活力になるわけです。この数値以上に大事なものは、普段の授業が分かるという、そういう充実感を持たせるということが大事なのだらうと思います。

子どもたちが分かるために授業をどう工夫していけばいいのか、各学校で取り組んでいます。指導主事は、例えば黒板の書き方をこのように工夫したらいいのではなどのアドバイスや他校の好事例を紹介したりしています。

#### **自治協委員**

それぞれ地域性を踏まえながら、コーディネーターの方あるいは支援ボランティアの方が非常に頑張っておられ、学校と地域の関係は非常によいと

いう感じを受けるのですが、例えば教育ビジョンには、学校と家庭、家庭と地域とあります。学校と家庭はいいのですが、地域と家庭になると、地域は家庭の中に入りにくい。どのような連携を考えているのでしょうか。教育ビジョンには項目としては載っていますが、具体的な姿が見えてこないわけです。

今、親が乳幼児も含めた児童の虐待、いじめと、国会の論戦の中にもありましたが、子どもが家庭環境で十分な教育や子育てがされていない、そういう人が大人になっていくと、また同じようなことの繰り返しとか、あるいは犯罪に走ったりといろいろなところに出てくる。日ごろ新聞、テレビに出っていますが、そういう背景を考えると、家庭でどういう育て方をしたのか、家庭の教育力がどうだったか、そういうところにすぐ気持ちをもっていってしまいます。

今、学校と家庭は非常にうまくいっていますが、教育委員会だけの問題ではなく一般行政もそうですが、やはり家庭の教育や子育て、その辺をこれから取り組んでいく大事な部分ではないかという気がします。どのようにお考えになっているのかお聞かせください。

#### **教育委員会事務局**

委員のお話のように、地域と学校については大変うまくっているということで、家庭と地域のつながりがどうであるか、それから、子どもと地域のつながりがどうであるかという点かと思えます。

子どもも家庭の一員とするならば、子どもと地域はつながってきている。それは、地域の方が、学校の中に入って行って子どもたちと過ごす、こういう機会が増えていきますし、子どもたちも、地域貢献活動として、学校から出て地域に入っています。実際に登校の様子を見ていると、地域の方がそれぞれの場で立って、子どもたちに気持ちよくあいさつをして下さり、そういう朝の触れ合いが行われているので、子どもと地域の方々が触れ合う機会は確実に増えていきます。そう考えると、自分の目指すいいモデルとして地域の方が浮かんでくる。そういう環境が整ってきているのではないかと思います。

また、家庭と地域がいかにつながっていくかということについてですが、例えば今、二つの小学校でふれあいスクール事業を行っています。放課後、学校に子どもたちの居場所を提供して、そこにお家の方も入ってもらったり、地域の方も入ってもらったりすることで、地域と家庭との触れ合いもできてきているのではないかと思います。そういう機会をどんどん増やしていくこと、それからそこに参加していくつながりを作っていくことが、これから大事なのではないかと私は考えます。

#### **自治協委員**

あいさつとかそういった見える部分はいいいのですが、見えない部分のことがあります。家庭教育や子育てについても支援をしていって、家庭の中の虐待、いじめ、そういったものが起ってからの相談の体制はあると思いますが、起らないような方法、その前の段階で行政が中に入って行って、何とか

いい方向で、家庭教育、子育てをと。目に見えない部分についても考えていかないと、こういう悪循環の繰り返しがだんだん大きくなっていくのではないかと、心配しています。教育ビジョンも、どんどん積極的に触れてほしいと思っています。

子育ては、基本的には家庭にあるわけですから、その辺をどうやって支援していくかという、その根本をよく考えての子育て、教育の支援という、そういうところに力を入れていってもらいたいなという希望があります。

### 教育委員

ご心配いただく気持ちは大変よく分ります。私は以前、主任児童委員をしていました。民生委員の中の、子どもに関することに特化した相談窓口のような、地域にいながらつなぎ役の役目をさせていただいていました。どちらかというと児童福祉になりますが、子どもを地域で育てるという面、または、子どもは地域の宝であるという面においては、教育委員会だから、または福祉だからというのは全然垣根はないと思います。私も主任児童委員の活動をしながら、ずっと心を痛めて、また心配もしてきたことです。

地域の中において、家庭には入り込めない側で見ていると、あの家庭は子育てがきちんととできているのだろうかかと心配だけれども、見るだけで口には出せないという、昨今そういう問題があると思います。

まず、学校としてできること。これは私の経験上の話なので教育委員会の立場では少し違うかもしれませんが。先生方は、PTA、保護者とつながるときに、子どもをとおして垣間見られる家庭のあり方にとても心を砕いて、家庭学習のアドバイスについても、保護者が子どもの家庭学習をどのように捉えてくださるか、担任の先生が非常に細かくフォローしています。そういう形で、お子さんの家庭も支えるようなことまで、心細かくやったださっているケースが、非常にたくさんありました。

ただ、それでも足りない部分も、ご心配のとおりあると思います。そこで何が力を発揮するかというと、だれもが子どもを産み育てて初めて1年生になるので、子育てしながら、分からないことばかりの若い親御さんが、だれをモデルにして、だれに支えていただけるかということ、地域の先輩方なのです。先輩方がなかなか入りきれない、入り込めないと思いながらも温かく見守ってくださったり、地域の方が手助けできることがないだろうかとか、そういう温かいまなざしで支えてくださることもあります。その家庭を支える大きな力になることを、主任児童委員の活動の中で学びました。それが大きな力になって、若いお母さんお父さんを支えて、導いてくださったケースがたくさんありました。

この地域は、地域の方々がそれぞれの子どもたちを本当に大事に見守ってくださっている。素地があるので、是非このままそれを続けていっていただきたいと思います。またそのお気持ちを少しずつ発信していただけたら、若いお父さんお母さんもそれを素直に受け入れられる土壌づくりが、地

域の中で育てられるといいなと思います。

もう1点。学校によってなのですが、家庭の中で赤ちゃんを抱っこしたり、おむつ替えに立ち会ったりということが少ない中学生も多いので、そういう中学生を対象に「こんにちは赤ちゃん事業」で、赤ちゃんをこれから生む妊婦さんや、小さな赤ちゃんをお連れの方を学校にお招きして、子どもたちに赤ちゃんってこんなほやほやで、みんなも赤ちゃんのとき、こんなにお母さんお父さんから大事にされたのだということを、実際に目の当たりにするような学習活動もあります。それも、地域と学校のパートナーシップ事業の中から、学習支援という形で地域の方に積極的に入っていただいて、学校で、そういうことに中学生の段階で触れられるようにということも、学校としてもやっています。そういう、いろいろなアプローチを模索しつつやっているのだということ、私の経験ですが、少し補足でお話させていただきました。

### **自治協委員**

今日は教育委員会との意見交換ですが、幼稚園や保育園、家庭教育、子育てという、この辺の連携、教育部局と一般行政部局との連携が大事だと思います。先ほどの縦割りの話ではないですが、やはり幼稚園、保育園、保護者に対する子育ての支援、教育支援ということをうまく連携して、そういうときから支援をしていったほうがいいのではないかと思います。

というのは、子育て、教育が十分でない、今度は、親はうちではもう限界だから学校でよろしくやってくださいと、家庭の役割を学校へ持っていったりする、そういう繰り返し、今でもやはりあるのではないかと感じます。子どもの小さいころが一番大事だと思うので、うまく横の連携を取りながら、子育てあるいは教育支援のほうに入って行ってほしい。

### **教育支援センター所長**

今年度、西蒲区では、中之口中学校区と西川中学校区で教育ミーティングを開催しました。「地域と学校の連携について」という同じテーマで開催しましたので、両教育委員から、その時の様子や感想などをお願いします。

### **教育委員**

西蒲区と東区の二つを担当していますので、東区の中学校区ミーティングと比較してしまいましたが、どちらの住民の方々も学校も、本当に一生懸命やっていたことは間違いなく、目に見える姿で感じられたのですが、特に、学校と地域、地域と家庭と、今話された課題ももちろんあると思います。

学校と地域については特に、西蒲区は非常によく結びついているということを感じました。西川の中学校区だったのでしょうか、地域の防災訓練の中に中学生が普通に入っているというような話をお聞きして、それと同じようなことを東区でしようと思っているがなかなかそれができない。まさに委員が先ほどおっしゃった課題だと思います。名簿さえ作れないという地域もあるので

す。支援が必要な人の名簿を作りたいが、地域や家庭にまったく入れない。名簿が作れないので、中学生がどこの家に行ったらだれを連れ出してくれればいいのかとか、そういうことの基礎さえ作れない。だから非常に困っているというような話も出てきています。その点、西蒲区では、そういうことをもうしているからとおっしゃったので、びっくりしております。本当に素晴らしい活動を、西蒲区全体でしていただいていると思っています。

あくまでも私個人の感想ですが、西蒲区の中のどの学校も、たいがい、非常に立派な施設をお持ちなのです。広い敷地に立派な校舎・体育館・グラウンドがあります。それをこれからどうやって維持していくかということが、学校や行政の問題だけではなく、やはり地域の問題でもあると思います。

地域の方々から学校施設の整備にも力を貸していただき、また、その施設を地域で活用していただければありがたいと思います。

子どもたちのためだけの学校ではありませんので、地域の方々も、この学校をこんなふうに使っている。これだけの実績がある。だから生徒数だけの問題ではないのですということが、これから何十年か先にも、地域をあげて言えるような体制を、これからも継続して作っていただくことが、将来の子どもたちのためには非常に大きな力になると思います。それが訪問させていただいた中学校や行事で寄せていただいた小学校などを見せていただいたうえで、あくまでも個人の感想ですが、今年1年をとおして思ったことです。

### 教育委員

中学校区ミーティングで、今年度、中之口中学校と西川中学校にお伺いしました。まず中之口中学校では、校舎の改築にあたって地域の方々の思い入れが非常に強く、改築するのであれば子どもたちのためにこういう校舎にしてほしい。階段の段差の高さ、体育館の天井の高さについても、地域の方の熱い思いが寄せられて、皆さんの力で新校舎のプランをきちんと練り上げられたというお話を伺って、驚くとともに非常に感銘を受けました。

西川中学校では、ミーティングに参加される皆さんが、「私は西蒲のどこの地区の出身です」と自己紹介のときに出身地をおっしゃいました。その自己紹介で始まったので、非常にアットホームに、みんな私たちの地域の子だよねという観点で話し合いが終始したことが、非常に印象深かったです。これは当たり前のことではなく、よその区の中学校区では、そういうことにはなかなかならないのです。今日のミーティングも少人数で、積極的に、なるべく全員の方が発言していただきたいくらい、ひざを突き合わせたフランクなお話の中で、話し合いが有意義なものに持っていけるといいなと思って参加しているのですが、西川中学校のときの中学校ミーティングは、終始そういうトーンで、自分たちの地域の子どもたちを育てて、どんな子にしたいかという思いから、話し合いが進んでいたように思っています。

その会で、確かPTA会長さんがおっしゃった言葉で、「大人が楽しんでいる姿が、子どもの力になっていく。自分たちのところは、そんなにPTAの人数



が多いわけではないので、必ずどこかの行事に出て行かないとPTA活動ができない。だから、みんな必ずどこかには出るようにしている」と。自分たちが楽しんでいれば、それを見ている子どもたちも楽しんでくれるだろうというご発言がありました。とても頼もしく拝聴させていただきました。

ウェルカム参観日で、西蒲区の他の学校にもお伺いしました。どこの学校も、コミュニティ協議会が全面的にバックアップしてくださっています。地域内の中学校や小学校の学校行事なども全部入ったすばらしいカレンダーが、しかも地域内の全戸配布で、コミュニティ協議会がお金を出してくださって。このようなことは、ほかにはないのです。西蒲区だけなのです。これはもうすばらしいことだなと思って、早速、よその区へ行って自慢したくらいです。それくらい、皆さんが当たり前と思って、地域の宝である子どもたちを支えてきてくださった今までの実績は、本当に尊いものだと思います。それをモデルに、見本に、ほかの区も、そういういいことが地域として支えにできるのであれば、自分たちの地域もやりましょうというように声をあげてくださったところもあります。これが今年1年西蒲区のいろいろな学校に伺って、私が本当に感銘を受けたこと、うれしかったことです。

#### 自治協委員

小中学校への学校訪問あるいは懇談会ということで、総務部会で検討して、平成24年度から平成26年度まで各学校を訪問しています。

そうした中で成果や課題というものも出てきました。自治協議会委員として各学校の状況を知るよい機会として、また現場の教師の生の声を聞いて、教育活動を支援するために始めたものですが、授業があつてなかなか参加できず、教師からの生の声が聞けない状況にありました。現在、そういったことが検討材料として上がっています。総務部会で継続して実施すべきかどうかということ踏まえて、今後のあり方について議論している最中です。

学校からいろいろな意見を聞きながら、それを自分たちの糧として地域活動に生かせるかどうか。そういった状況を知りながら、つなげていけるかということについて意見が分かれているところです。

総務部会は非常に積極的で、ぜひ継続して実施したいと思っていますが、10人の委員で時間を忘れて本当に熱心に検討しており、今年はまだ8回開催しています。今日、その点についても時間があれば相談させてもらいながら、あるいは隣に中之口中学校がありますので、先生、学校の意向等も聞きながら、再度、今後のあり方について検討したいと思っています。

#### 自治協委員

私も曾根小学校と潟東南小学校を訪問いたしましたけれども、どちらも、校長先生のお話、コーディネーターのお話、共に非常に印象深く、参考になると思ったのですが、実際は、自治協議会の総務部会以外のところに関して言うと、成果が出ているのだろうかという声があります。それに対してなかなか

かいい答えは現在なく、総務部会で模索しているところです。

そこで、教育委員に、学校側と自治協議会との間の垣根を取る良い方法があったらお聞かせいただきたい。私もコミュニティ協議会から学校評価委員として入っていると、相当細かいところまで話し合いが進みます。いじめの問題も含めて、そういう論議ができるのですが、自治協議会として学校へ行くと、向こうの敷居が何だか高くなるというか、こちらの未熟さもまだあるような気がします。こちらも何を求めてそこに訪問しているのか、勉強しなければだめだと思うのですが、その辺のところ、今日でなくてもいいので、何かいいアドバイスをいただければありがたいと思います。ちなみに、他の区では、そういうようなことは行われているかどうかも含めてお聞かせいただければありがたいです。

### 教育委員

今ほどご質問された学校訪問については、ほかの区ではないのです。むしろ、自治協議会の方々が学校を訪問して、そうやって学校の現場の声を聞きたい、困っているのだったら何か手助けしたいと、積極的に知恵を絞ってくださっていることこそが、本当にありがたいことで、とてもうれしく、このお話を聞かせていただきました。

個人的な意見ですが、この考え方、取組みは非常にすばらしいことだと思います。委員の皆さんが訪問されて、訪問してよかったと思える訪問の仕方、またはその活用の仕方を、定例会等でほかの教育委員とも情報共有しますので、後日、改めて回答させていただきたいと思います。

### 教育委員

こういう取組みをしてくださっているということは、本当にありがたいと思います。学校を回るのだから、教育のことについて話し合っ、教育に関することで何か実績を残すべきなのだということにこだわられることはないと思います。先ほど申し上げたように、西蒲区の学校は本当にすばらしい施設なのです。その学校という施設をまちづくりにどう活用しようかとか、そんなこともお考えいただいてもいいのではないかと思います。

学校という施設を地域としてどう活用していくのか。そこに、もちろん地域の住民と保護者という意味での家庭と、それから子どもたちが加わっていければ、大きな刺激にもなっていくような気がします。

そんなことも話し合っただいて、もし将来、何か、そういうようなものから新しいものが生まれてくれればありがたいと思います。